



# 皆さんの声を議会へ

当市議会では、市政全般にわたって事業の執行状況や将来に対する方針などについて質問し、執行機関からの報告・説明などを求める一般質問において、個人質問と代表質問が認められています。代表質問は会派代表者等が市政執行方針等に対して行うもので、改選年は6月定例会（改選年以外は3月定例会）において行われています。住民から重大な関心と期待を持たれていることについて問いかけ、議員自らが提言を行い、政治姿勢を示すことができる大事な議員活動の場です。

本会議場での議員一人当たりの質問時間は会派代表者が45分以内、会派無所属議員は15分以内となっています。今議会では2日間にわたり行われ、6名の議員が質問しました。その一部をお知らせいたします。

| 質問者                        | 質問項目                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>関藤 龍也</b><br>(市民ネットワーク) | 財政健全化と基金 滝川駅周辺整備等に向けた方針 人口減対策と「ちょうどいい田舎滝川」 <b>子育て支援策</b> 婚活イベントの開催 新型コロナ5類移行後の市立病院運営方針 <b>滝川市立病院経営強化プラン</b> 新規就農者の育成確保 事業者支援 滝川ふれ愛の里の運営継続 スカイワーケーション事業 ふるさと納税 A L T 英会話学習 <b>道德教育のあり方</b>                                                |
| <b>山口 清悦</b><br>(新政会)      | 市長の4期目における市政運営 滝川駅周辺の環境整備及び公共施設の再編 産後ケア事業及び不妊治療支援 <b>学校給食費のさらなる公費負担</b> 国際交流、国際教育事業の推進 国学院大学との連携 市立病院の看護師確保及び離職防止 生活支援コーディネーター 市民活動の推進 市内商工業者に対する支援 滝川ふれ愛の里及び池の前水上公園キャンプ場の運営 滝川市空家等対策計画 ふるさと納税 自治体D X 教職員の能力向上 不登校児童生徒への支援 読書環境の充実 温水プール |
| <b>堀 重雄</b><br>(公明党)       | <b>子育て支援</b> 高齢者の入浴機会の確保 <b>業務の改善</b>                                                                                                                                                                                                    |
| <b>高橋江海子</b><br>(れいわ新選組)   | 妊婦に対する経済的支援 <b>産後ケア事業</b> 安心して子どもを育てる環境 福祉サービスの提供体制                                                                                                                                                                                      |
| <b>柴田 文男</b><br>(21フォーラム)  | <b>滝川市空家等対策計画の推進体制</b> <b>教育環境の整備</b>                                                                                                                                                                                                    |
| <b>寄谷 猛男</b><br>(日本共産党)    | 滝川駅周辺の環境整備 公共交通の利便性 新たなホールの建設 <b>市立病院の経営</b> 生活支援体制の充実 ジェンダー平等 <b>国民健康保険特別会計</b> マイナンバーカードの普及促進 主権者教育 <b>I C T 導入による学校図書館の役割</b> 部活動の地域移行                                                                                                |

## 第2回定例会 代表質問から

### 子育て支援策について



関藤 龍也  
市民ネットワーク

**問** 本年度から開始された中学生以下の医療費無償化は、市民からの評価も高く、多子家庭にとっては安心材料の一つと思われる。しかし、近年の物価高騰を考えると、さらなる子育て支援の充実を図るべきと思うが、検討を進める上での必要な視点について伺う。

**答弁** 国では「こども未来戦略方針」が示され、児童手当の拡充、給食費の無償化など経済的な不安を減らす施策が検討されています。本市でも伴走型相談支援や産後ケア事業などを進める中で、子育て世帯に寄り添い孤立させない安心を与えるための視点が必要だと考えます。

**問** 滝川市立病院の健全経営は市民誰もが望んでいる課題である。今回方針として示された総務省のガイドラインに基づく滝川市立病院経営強化プランについて、これまでの経営改善計画とどのような関係性となるのかを伺う。

**答弁** 経営改善計画は、経営改善の取り組みをまとめたもので、新型コロナウイルス感染症に伴う国からの交付金・補助金を財源に充てたことなどから、病院事業収支は改善しました。経営強化プランは、こうした情勢も踏まえた上でコロナ後の見通しを精査し、計画に反映していきたいと考えています。

**問** 道德教育推進事業の一環として、外部講師による研修を通して道德教育の質的転換を図るとされているが、どのような外部講師を検討し、どのような転換を図ろうとしているのかを伺う。

**答弁** 今年度は、聖徳学園大学の山田貞二准教授を招き、モデル授業や講演会を行っていただく予定です。従来の「先生が中心になって進めていく授業」から「児童生徒が色々な考えに触れ、自分の生き方を見つけていく」、いわゆる「考え、議論する道德」へ質的転換を図ります。

### 学校給食費のさらなる公費負担について

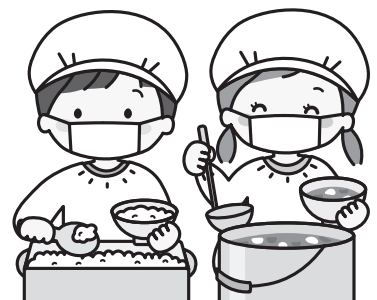


山口 清悦  
新政会

**問** 本市においては、子育て世帯への経済的支援を図るため、学校給食に係る食材費上昇分について4月から公費負担しているが、歯止めの利かない物価上昇を鑑み、もう一步踏み込んだ給食費の公費負担の実施を英断することを期待してやまない。市長の見解を伺う。

**答弁** 学校給食費のさらなる公費負担についてですが、このことは市長就任当初から必要性の認識は変わっていませんし、何らかの支援を行いたい気持ちは強く持っているところです。しかしながら、学校給食費の無償化を実施するには、毎年、多額の費用が必要とされ、財源捻出等の理由から実施にいたる判断が非常に難しい状況にあります。今年度に限っては、近年の急激な物価高騰により食材費が上昇しつづけていることから食材費上昇分についての負担軽減に取り組んでいるところです。学校給食費の公費負担につい

ては、自治体財政力の差によって保護者負担に格差が生じないように、できれば国において実施いただくことが望ましいことですし、先日国から示された方針では無償化に向けて全国的な実態調査を行い、課題を整理することとされていますので、「もう一步踏み込んだ公費負担」については、こうした国の動きや道内自治体の状況も注視しながら、他の施策との優先順位を総合的に勘案し、慎重に判断していきたいと考えています。



## 第2回定例会 代表質問から

### 自治体DXの推進に伴う 業務の改善について



堀 重雄  
公明党

**問** 令和3年9月に実施された市民アンケートでは、子育て支援に関する市民満足度が低いという結果が報告された。この市民の声を受け、様々な子育て支援策が市政執行方針で示されているが、特に市民ニーズが高いと考えられるものには何があるのか、市長の見解を伺う。

**答弁** 総合計画の市民アンケートでは、子育て支援についての改善の優先度が高い項目として「妊娠・出産に対する支援の充実」、「保育サービスなどの子育てに係る支援や児童福祉の充実」があげられています。また、必要とする具体的な子育て施策を問う設問を設けていませんでしたが、自由回答に記載されている不満として、他市町と比較し経済的な支援の不足は少なくなく、経済的な支援に対する市民ニーズは高いと考えられます。令和5年度に実施する事業として、医療費助成制度の拡充、伴走型相談支援と出産・

子育て応援給付金の一体的実施、産後ケア事業はその市民ニーズに答えることができた事業と考えています。

**問** 自治体DXの推進に関する政策が示されているが、業務全般において改めて業務の見える化を行うことで無理無駄を発見し、改善策を検討することを進めるべきだと考えるが、市長の見解を伺う。

**答弁** 「業務の見える化」については、現状の業務の可視化を行うことで、より具体的で効果的な改善につながるものと考えています。今年度、交付金を活用して進めている窓口改革においては、手続きや業務フローの整理などを行いながら、改善策の検討を進めていくこととしており、窓口改革の中で業務の見える化の手法の整理を行い、その成果も踏まえながら、他業務への展開などを検討していきたいと考えています。

## 第2回定例会 個人質問から

### 産後に関わるサポートの 事業体制について



高橋江海子  
れいわ新選組

**問** 現在実施されている産後ケア事業は、宿泊型や通所型であり、全て砂川市立病院に行かなければ受けることができない。市内で実施することが真の意味で全ての妊婦が安心して出産、子育てできる環境を整えることにつながるのではないだろうか。産後ケアの一部でも市内で行うことはできないのかを伺う。

**答弁** 自宅からのアクセスという面で市内でのニーズがあることは当然かと思えます。しかし国の基準で産後ケアには助産師、保健師、看護師を1名以上おくことと、保健指導を行う際は、病院や診療所の空きベッドを活用することが望ましいと定められているため、本市では現時点で条件を満たせていません。この条件を満たし、市内の8割の方が出産をされている砂川市立病院で出産から産後まで同じ場所で携わってもらうことが、現時点で理想的な流れであると考えています。

**問** 産後ケア事業を行う一方、行政と民間が連携して行う産後ヘルパー事業についても、近年の核家族化やコロナ禍で家族のサポートが受けられない市民の期待が非常に高まっている。市内にある既存のヘルパー事業（買い物・家事代行サービス等）を出産後の親等が利用した場合に一部助成を行うことについてどのように考えるかを伺う。

**答弁** 既存ヘルパー事業所については、高齢者や障がい者向けの事業所が大半であり、介護人材の不足という課題も抱える中、これまで産後ヘルパーとしての稼働は少ないと思われるため、それぞれの事業所にも理解を深めていただく必要があります。一部助成を行う場合、財源確保の問題もあることから、まずは伴走型相談支援を進めていく中でしっかりと聞き取りをしながら子育て世帯への支援について構築していきたいと考えています。

## 第2回定例会 個人質問から

### 空き家等対策の推進について



柴田 文男  
21フォーラム

**問** 今後、空き家対策は重大な課題となるが、現状の市の体制ではその需要に対処できない。適切な除却を進めるため新たな部署の設置や専門職の配置が必要と思われるが、考えを伺う。

**答弁** 現在の滝川市空家等対策計画の推進体制については、くらし支援課の職員が市内の状況を確認し、除却が必要と思われるものは建築技師も同行し危険度を判断しているところです。ご指摘のとおり、空き家問題は今後のまちづくりに大きく影響する問題と認識しています。課題の重大さを再認識し、庁内の慢性的人員不足も踏まえながら、専門部署の設置について検討していきたいと考えています。

**問** 未曾有の少子化が急速に進む一方で、それを上回るかのような教職員不足が懸念されている。本市における現状と対応策について伺う。

**答弁** 道内はもとより、全国的にも教職

員不足の傾向が続いており、大変憂慮すべき状況です。少子化の影響で学校数や学級数は減少しているものの、様々な理由から大幅な教職員不足が生じております。本市においても多くの問題が生じており、喫緊の課題であると承知しています。教職員不足の解消には、定数の改善など抜本的な制度改正が不可欠と考えますので、都市教育長会などを通じ、国や道に強く働きかけていきたいと考えています。

**問** 部活動の地域移行については、子どもたち本位のものでなければならない。現状と課題について伺う。

**答弁** 市内小・中学校の部活動の状況を本年1月に調査し、児童生徒や保護者のニーズを把握しながら、受け皿となる地域の団体や指導者を継続して確保したうえで、持続可能な活動となるよう丁寧に準備を進めていきます。

### 学校図書館の利用環境の維持について



寄谷 猛男  
日本共産党

**問** 総務省のガイドラインに基づき策定する市立病院の経営強化プランにおいて、業務縮小による住民医療サービスの後退が懸念されるが、どのような計画を想定しているのか考えを伺う。

**答弁** 市立病院の役割は中空知医療圏の急性期医療を担うことであり、経営強化プラン策定において住民医療サービスの縮小・後退については考えていません。

**問** 国民健康保険税のさらなる軽減措置の取り組みについて考えを伺う。

**答弁** 国民健康保険は、他の医療保険と比べ高齢者が多いことから医療費水準が高く、かつ比較的所得の少ない世帯の加入割合も多いなど構造的な問題を抱えているため、被保険者の保険税負担が重くなる傾向にあります。今後の道の保険税統一に向けた税率改定はやむを得ないものと考えていますが、基金を活用するなど保険税の急激な負担増にならないよう

検討していくほか、軽減措置等を受けられる方々に対してはスムーズに申請できるよう窓口や広報、ホームページなどで丁寧に周知します。

**問** 学校教育分野へのICT導入が進む一方、学校図書館の利用環境の後退が危惧されるが、市の考えを伺う。

**答弁** 学校図書館には、児童生徒の読書センター、学習センター、情報センターとしての役割・機能があり、GIGAスクール構想により1人1台端末が導入され、電子書籍を活用する流れが進んだ中においても、この3つの機能の発揮を通して、学校教育の中核たる役割があることに変わりはありません。また、読書が好きな子どもたちにとって心の拠り所である学校図書館の環境を維持することは大変重要なことです。魅力ある学校図書館づくりを各学校の司書教諭が中心となり市立図書館と連携をして進めています。